



明治維新150年
2018年
明治維新発源地 山口市

山口新能

明治維新一五〇年記念

平成三十年

七月二十九日(日)

開演午後六時

(開場午後四時半)

場所 野田神社能楽堂

(山口市天花一丁目一・二)

能・喜多流

翁

狂言・和泉流

栗谷

末広かり

野村

能夫

萬斎



◇入場料

S席 12,000円【300席】 A席 8,000円【200席】
B席 5,000円【300席】

◇入場券のご購入方法

電話予約開始日 平成30年6月1日(金) 受付時間9時~17時30分
店頭販売開始日 平成30年6月1日(金) 受付時間9時~17時30分

電話予約

- 電話予約初日は、大変混み合い、かかりにくくなるのが想定されます。
- 各席・枚数のみのご予約です。座席番号は実行委員会が決定します。
- ご来店が来ないお客様は、振込通知書を送付させていただきますのでチケット代金の合計金額+500円を振り込んでください。(金額は振込通知書に記載させていただきます)
- 土・日・祝祭日は休業です。

店頭販売・受け取り

- チケットは現金での販売となります。(金券・小切手等は取り扱いいたしません)
- 販売場所は下記、山口観光コンベンション協会(JR山口駅2F)です。
- 7月28日・29日は野田神社にて販売いたします。
- 土・日・祝祭日は休業です。

■チケットの販売は、完売次第終了とさせていただきます。

チケット取扱場所：(一財)山口観光コンベンション協会

住所：山口市惣太夫町2-1 JR山口駅2階

電話：083(933)0088

営業時間：9時~17時30分 休日：土・日・祝祭日

■7月28日・29日のお問い合わせは野田神社

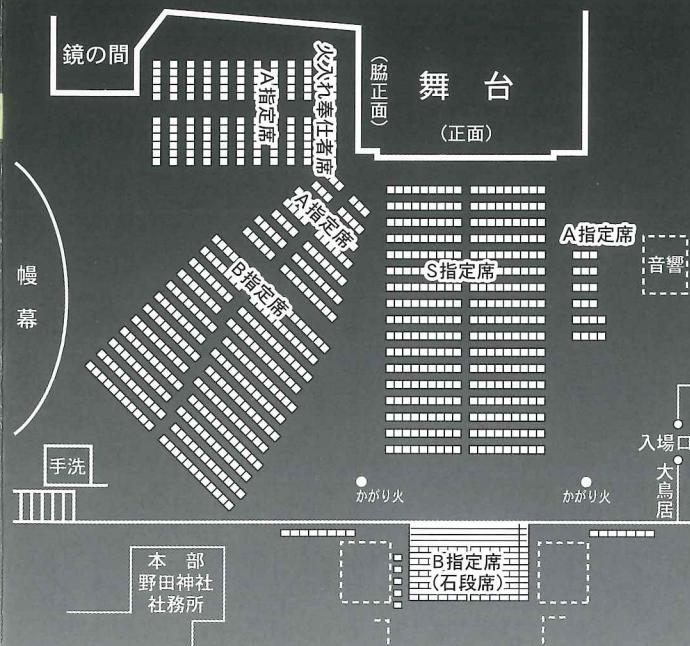
〒753-0091 山口県山口市天花1-1-2

☎083-922-0666



■JR・バスなど公共交通機関のご利用をお願いします。

◇座席ご案内図



主催：山口新能実行委員会
共催：一般財団法人 山口観光コンベンション協会
後援：山口県 山口市
山口宇部空港ビル株式会社
明治維新150年記念事業実行委員会

山口新能特設サイト▶ 西の京やまぐち 検索

山口 薪能

栗谷 能夫 三番叟 野村 萬齋

千歳 野村 裕基

大鼓 三王 清

胴脇 戸田 直樹

小鼓 横山 晴明

笛 杉 信太郎

手先 横山 幸彦

後見 中村 邦生

地謡

金子敬一郎

佐藤 陽

長島 茂

友枝 昭世

休 憩

火入式

仕舞

枕 慈童

キリ

友枝 昭世

地謡

佐藤 陽
金子敬一郎
長島 茂
栗谷 充雄

狂言

末広かり

果報者

野村 萬齋

太郎冠者 高野 和憲
すっぱ 深田 博治

半 能

子獅子 栗谷 浩之

シテ 栗谷 明生

石橋

ワキ 森 常好

大鼓 三王 清 太鼓 梶谷 義男
小鼓 横山 幸彦 笛 杉 信太郎

後見 中村 邦生

高林 呻二

地謡

松永 孝志 栗谷 充雄
小谷 潔 長島 茂
倉住 陽允 金子敬一郎

栗谷 能夫 あわや よしお

1949年(昭和24年)生。故栗谷新太郎の長男。5歳で初舞台『花籠』子方、7歳で喜多流宗家に入門し故十五世喜多実に師事する。また三鉢の会の同人として新作能『鷹姫』、国立能楽堂企画公演の新作能『晶子みだれ髪』に主演するなど意欲的な活動を続けている。重要無形文化財総合認定保持者。2012年、第34回観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。『栗谷家所蔵能面選』監修。



栗谷 明生 あわや あきお

1955年(昭和30年)生。故栗谷菊生(人間国宝・芸術院会員)の長男。故十五世喜多実、友枝昭世師、父に師事する。3歳で初舞台『鞍馬天狗』花見、以後『狸々乱』『道成寺』『翁』『望月』を披く。平家物語のピデオ化で『月見の段』を能として収録他、『大和奏曲抄五体風姿』に出演。重要無形文化財総合認定保持者。著書に『栗谷菊生能語り』『夢のひとしづく・能への思い』。



■ 翁 (おきな) 栗谷 能夫

能や狂言と違つて(翁・千歳・三番叟)の三番一組にして演ずるものである。老体の神が祝福をもたらすという民俗芸能は各地にある。それが古い時代に猿楽と結びつき、いつからか猿楽の本芸の一つとなった。その経緯は不明だが、遅くとも鎌倉時代中期には定着したと考えられる。

各役は、当日の朝食から別火を始めるとか、自宅別火はせずに楽屋の火鉢のみ別火にするとかまつたく別火をしないとか、流派や個人で違つている。当日は鏡の間に白木の机を据えて祭壇とし、神体の面を納めた面箱を祭り、神酒、洗米等を供え、切り火で四方を清める。

■ 末広かり (すえひろがり) 野村 萬齋

ある果報者(富豪)が、祝宴の来客への進物に末広がり(扇の一種)を買いたい求め、太郎冠者を都へつかわす。末広がりが何であるか知らない太郎冠者が、「末広がり買おう」と都大路を呼び歩いていると、都のすっぱ(詐欺師)に呼びとめられる。太郎冠者を田舎者と見てとつたすっぱは、ことば巧みに太郎冠者をだまし、傘を末広がりといつわつて売りつける。高い値で傘を求めて帰つた太郎冠者は、主人に厳しく叱責されるが、すっぱが主人の機嫌の悪いときに囁せといつて教えてくれた囁子物を思い出し、「傘をさすなる春日山……」と拍子おもしろく謡い舞う。立腹していた主人の機嫌もしだいに直り、ついに浮かれ出して、主従仲よく謡つて囁し回る。

■ 半能 石橋 (しゃつきょう) 栗谷 明生

寂照法師が唐・天竺に渡り、文殊菩薩が住むという清涼山にいたり、石の橋を渡るうとすると、来かかった樵夫に制止される。樵夫のいうには、この橋は幅が一尺にも足らず、苔ですべりやすく、下は千丈の谷底で人間の渡り得る橋ではない。ここでしばらく奇端をまつのがよいと教えて立ち去る。やがて菩薩に仕える霊獣の獅子が現れ、山一面真っ盛りの紅白の牡丹に戯れつつ、豪壮な舞を舞う。

〔参考文献〕 能・狂言辞典

野村 萬齋 (のむら まんさい)

1966年(昭和41年)生。野村万作の長男。祖父故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。3歳で初舞台。東京芸術大学音楽学部卒業。国内外で狂言の普及を目指し、新しい演劇活動にも意欲的に取り組む。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊国屋演劇賞のほか、12年には芸術祭優秀賞受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。著書に『萬齋でござる』『MANSAI〇解体新書』朝日新聞社』『狂言サイボーグ』(文春文庫)など。

